なわてBOOKS【２０２１年８月号】

今回も恵文社一乗寺店の能邨さんが、この夏オススメの３冊のかわいい絵本を選書してくださいましたのでご紹介致します。

『わたしのろばベンジャミン』
作：ハンス・リマー/写真：レナート・オスベック/訳：松岡享子/発行：こぐま社

のどかな**ギリシャの島を舞台に、一頭の子どものロバと、小さな女の子スーザンの交流がモノクロの写真で描かれる写真絵本**です。散歩の途中で見つけた迷子の赤ちゃんロバを家に連れて帰ったその日から、スーザンの生活はそのベンジャミンのことでいっぱい。ささやかな日常、小さな冒険など、本当に牧歌的な風景の中で淡々と描かれる二人だけのピュアな世界がまぶしい、**60 年代に発表され長く愛される名作**です。日本語版は 90 年代ですが、当店でもその穏やかさと愛らしさからロングセラーの一冊です。

『はくぶつかんのよる　』　作：イザベル・シムレール/訳：石津ちひろ/発行：岩波書店

博物館に夜が来た。人間は誰もいないその空間で、不思議な蝶々が眠っていた展示物たちの目を覚ます。虫も、動物も、モノまでも…。**夜の博物館という魅力的なシチュエーションを舞台に、さまざまな動物・静物を微細に描き、読む者の好奇心を刺激し目と心を楽しませてくれる作品**です。実際にフランスにある博物館がモデルだそうですが、ナイトミュージアム的な面白さと優美な雰囲気が魅力の一冊です。**シックな絵と対照的な躍動感が素晴らしい**雰囲気です。

『そらはあおくて』
作：シャーロット・ゾロトウ/訳：なかがわちひろ/絵：杉浦さやか/あすなろ書房

小さな女の子が見つけたアルバムには、小さな頃のお母さんが写っていました。その次にはお母さんのお母さん、そのまたお母さんたちが…。家族の歴史が刻まれたアルバムを見つめながら、今を生きる女の子の胸には、自分の後ろにたくさんの人たちがいたんだということ、それはみんなつながっているんだ、という当たり前のことに気付かされます。そして**たとえ時代は移ろっても変わらないのは空の青さや日の輝き**。それらを受け取れる喜びを忘れないで、という、**小さな子に時の流れや何か大いなるものへの気づきを与える優しいゾロトウらしい作品**です。日本のイラストレーターがつけた絵も非常に可愛らしく、当店では女の子向けの絵本としても人気を博しています。

【なわて BOOKS】
毎月、京都の恵文社一乗寺店さんからなわて幼稚園の図書室に届く、スタッフがお薦めする最新の絵本や話題の絵本をご紹介しています。

【恵文社一乗寺店】
２０１０年にイギリスのガーディアン紙が発表した「世界でもっとも素晴らしい書店１０選」に日本から唯一選ばれた京都・一乗寺にある書店。

http://www.keibunsha-books.com/